

(案)

学校給食における 食物アレルギー対応マニュアル



平成30年 月
生駒市教育委員会

目 次

第1 食物アレルギーについて

- (1)食物アレルギーとは
 - ①食物アレルギーの定義
 - ②食物アレルギーの仕組み
 - ③食物アレルギーの原因
 - ④食物アレルギーのタイプ
 - ⑤食物アレルギーによる症状
 - ⑥アナフィラキシー
- (2)生駒市の学校給食等の概要
- (3)生駒市における食物アレルギーの状況

第2 学校給食センターにおける対応

- (1)基本方針
- (2)実施基準
- (3)食物アレルギーの対応方法
- (4)対応食(除去食)の対応
- (5)対応食提供の流れ
- (6)選択表の記入方法

第3 実施までの流れ及び受け入れ体制

- (1)申請の流れ
- (2)実施までの流れ

第4 学校における対応

- (1)対応食の受け渡し・配膳・片付け
- (2)教職員の役割
- (3)児童生徒への対応
- (4)学校給食以外での配慮
- (5)給食対応の組織と支援体制

第5 緊急時の対応

- (1)対応の手順
- (2)内服薬・エピペン®

第6 関係書類及び様式

第5 緊急時の対応

食物アレルギーを有する児童生徒が何らかの体調の変化を訴えた場合は、アレルギー症状である可能性を考慮して体調の変化を観察し、迅速な対応のタイミングを逃さないことが大切です。アナフィラキシーやアナフィラキシーショックは、急速に症状が進行するおそれがあり、極めて危険な状態であるため、迅速かつ適切な判断と対応が必要です。教職員の誰もが適切な対応がとれるよう、緊急時の対応について確認しておく必要があります。個々の児童生徒に応じた対応ができるよう、保護者や主治医等と連携を図り、対応について確認しておくことが重要です。

(1) 対応の手順

1. 緊急時対応プランの作成

食物アレルギー対応委員会等において、学校の実状に応じた緊急時対応プランを作成する。

2. 教職員間の共通理解

緊急時対応プランについて、職員会議等において必ず全教職員で情報共有し、緊急時に迅速かつ適切な判断と対応がとれるよう、研修や訓練を行うことが重要である。全ての教職員がどの役割でも担うことができるように、緊急時を想定した研修を実施しておくことなどが重要となる。

3. 関係機関との連携

主治医、学校医、近隣の医療機関、消防署、教育委員会等と連携した対応が重要である。連携を必要とする関係機関との事前の情報共有については、保護者の了解を得て行う必要がある。

4. 「食物アレルギー緊急時対応マニュアル《奈良県》」の活用

原因食物を食べてしまっただけでなく、触ってしまった、吸い込んでしまった場合にも症状が現れる可能性がある。

万が一の発症に備え、「食物アレルギー緊急時対応マニュアル《奈良県》」を職員室や各教室に常備しておくなどの対応が考えられる。

(2) 内服薬・エピペン®

医師から食物アレルギーの症状が出た時に使用する薬品が処方されている場合、薬の種類や管理について、教職員が情報共有しておく必要があります。

1. 処方薬の例

ア 内服薬

抗ヒスタミン薬	<ul style="list-style-type: none">・ 皮膚のかゆみ、赤み（紅斑）、じんましんを和らげる。・ アナフィラキシーには十分な効果は期待できない。
気管支拡張薬	<ul style="list-style-type: none">・ 気管支を広げて、咳や喘鳴を和らげる。・ のどの腫れ（喉頭浮腫）による咳や呼吸困難には無効である。
ステロイド薬	<ul style="list-style-type: none">・ 即効性を期待することはできない。

イ エピペン®

アナフィラキシーのすべての症状を和らげる。具体的には、以下のような作用がある。

- ・ 心臓の動きを強くして血圧を上げる。
- ・ 血管を収縮して血圧を上げる。
- ・ 皮膚の赤み（紅斑）やのどの腫れ（喉頭浮腫）を軽減する。
- ・ 気管支を広げて呼吸困難を軽減する。 など

これらの効果はすぐに認められる。その一方で、体の中で代謝されやすく、効果の持続時間は10分程度である。アナフィラキシーやアナフィラキシーショックの場合には、エピペン®の投与が必要である。エピペン®は医療機関外でアドレナリンを自己注射するための薬剤であり、緊急時の補助治療薬であるため、使用後は必ず救急車で医療機関へ搬送し、受診する必要がある。

アナフィラキシーの既往がありながら、他の基礎疾患の影響でエピペン®の投与ができない児童生徒がいる場合は、あらかじめ緊急対応について主治医と相談をしておく必要がある。

2. 管理について

処方薬については、児童生徒本人が携帯・管理することが基本であるが、本人が携帯・管理ができない状況もある。児童生徒が学校に処方薬の持参が必要な場合、又は学校が代わって処方薬の管理を行う場合には、学校の実情に即して、主治医、学校医、学校薬剤師等の指導のもと、保護者と十分に協議し、その方法を決定する。方法の決定にあたっては、以下の事柄を関係者が確認しておくことが重要である。

- ・ 学校が対応可能な事柄
- ・ 学校における管理体制
- ・ 保護者が行うべき事柄（有効期限、破損の有無等の確認）等

「学校は保管中に破損等が生じないように十分に注意するが、破損等を生じた場合の責任は負いかねる」などについて、保護者の理解を求めることも重要である。

食物アレルギー緊急時対応マニュアル

アレルギー症状への対応の手順



発見者が行うこと

- ① 子供から目を離さない、ひとりにならない
- ② 助けを呼び、人を集める
- ③ エピペン®と内服薬を持ってくるよう指示する

A 施設内での役割分担

アレルギー症状	
全身の症状	呼吸器の症状
<ul style="list-style-type: none"> ・意識がない ・意識もうろう ・ぐったり ・尿や便を漏らす ・脈が触れにくい ・唇や爪が青白い 	<ul style="list-style-type: none"> ・声がかすれる ・犬が吠えるような咳 ・のどや胸が締め付けられる ・咳 ・息がしにくい ・ゼーゼー、ヒューヒュー
消化器の症状	皮膚の症状
<ul style="list-style-type: none"> ・腹痛 ・吐き気・おう吐 ・下痢 	<ul style="list-style-type: none"> ・かゆみ ・じんま疹 ・赤くなる
顔面・目・口・鼻の症状	
<ul style="list-style-type: none"> ・顔面の腫れ ・目のかゆみや充血、まぶたの腫れ ・くしゃみ、鼻水、鼻づまり ・口の中の違和感、唇の腫れ 	

緊急性が高いアレルギー症状はあるか？
5分以内に判断する

B 緊急性の判断と対応 B-1 参照

ある

B 緊急性の判断と対応 B-2 参照

- ① ただちにエピペン®を使用する **C エピペン®の使い方**
- ② 救急車を要請する(119番通報) **D 救急要請のポイント**
- ③ その場で安静にする
- ④ その場で救急隊を待つ
- ⑤ 可能なら内服薬を飲ませる

エピペン®が2本以上ある場合

反応がなく呼吸がない → **E 心肺蘇生とAEDの手順**

反応がなく呼吸がない → エピペン®を使用し10～15分後に症状の改善が見られない場合、次のエピペン®を使用する **C エピペン®の使い方**

ない

内服薬を飲ませる

保健室または、安静にできる場所へ移動する

5分ごとに症状を観察し
症状チェックシートに従い判断し、対応する
緊急性の高いアレルギー症状の出現には特に注意する

F 症状チェックシート

A

施設内での役割分担

◆各々の役割分担を確認し事前にシミュレーションを行う

管理・監督者（園長・校長など）

- 現場に到着次第、リーダーとなる
- それぞれの役割の確認および指示
- エピペン[®]の使用または介助
- 心肺蘇生やAEDの使用

発見者「観察」

- 子供から離れず観察
- 助けを呼び、人を集める（大声または、他の子供に呼びに行かせる）
- 教員・職員 A、B に「準備」「連絡」を依頼
- 管理者が到着するまでリーダー代行となる
- エピペン[®]の使用または介助
- 薬の内服介助
- 心肺蘇生やAEDの使用

教員・職員 A 「準備」

- 「食物アレルギー緊急時対応マニュアル」を持ってくる
- エピペン[®]の準備
- AEDの準備
- 内服薬の準備
- エピペン[®]の使用または介助
- 心肺蘇生やAEDの使用

教員・職員 B 「連絡」

- 救急車を要請する（119番通報）
- 管理者を呼ぶ
- 保護者への連絡
- さらに人を集める（校内放送）

教員・職員 C 「記録」

- 観察を開始した時刻を記録
- エピペン[®]を使用した時刻を記録
- 内服薬を飲んだ時刻を記録
- 5分ごとに症状を記録

教員・職員 D～F 「その他」

- 他の子供への対応
- 救急車の誘導
- エピペン[®]の使用または介助
- 心肺蘇生やAEDの使用

B

緊急性の判断と対応

◆アレルギー症状があったら5分以内に判断する！

◆迷ったらエピペン®を打つ！ただちに119番通報をする！

B-1 緊急性が高いアレルギー症状

【全身の症状】

- ぐったり
- 意識もうろう
- 尿や便を漏らす
- 脈が触れにくいまたは不規則
- 唇や爪が青白い

【呼吸器の症状】

- のどや胸が締め付けられる
- 声がかすれる
- 犬が吠えるような咳
- 息がしにくい
- 持続する強い咳き込み
- ゼーゼーする呼吸
(ぜん息発作と区別できない場合を含む)

【消化器の症状】

- 持続する強い(がまんできない)お腹の痛み
- 繰り返し吐き続ける

1つでもあてはまる場合

ない場合

B-2 緊急性が高いアレルギー症状への対応

① ただちにエピペン®を使用する！

➔ **C** エピペン®の使い方

② 救急車を要請する(119番通報)

➔ **D** 救急要請のポイント

③ その場で安静にする(下記の体位を参照)

立たせたり、歩かせたりしない！

④ その場で救急隊を待つ

⑤ 可能なら内服薬を飲ませる

◆ エピペン®を使用し10~15分後に症状の改善が見られない場合は、次のエピペン®を使用する(2本以上ある場合)

◆ 反応がなく、呼吸がなければ心肺蘇生を行う ➔ **E** 心肺蘇生とAEDの手順

内服薬を飲ませる

↓
保健室または、安静にできる場所へ移動する

↓
5分ごとに症状を観察し症状チェックシートに従い判断し、対応する緊急性の高いアレルギー症状の出現には特に注意する

F 症状チェックシート

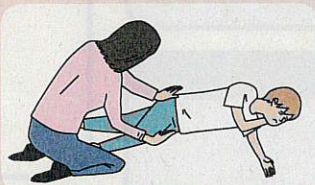
安静を保つ体位

ぐったり、意識もうろうの場合



血圧が低下している可能性があるため仰向けで足を15~30cm高くする

吐き気、おう吐がある場合



おう吐物による窒息を防ぐため、体と顔を横に向ける

呼吸が苦しく仰向けになれない場合



呼吸を楽にするため、上半身を起こし後ろに寄りかからせる

◆それぞれの動作を声に出し、確認しながら行う

① ケースから取り出す



ケースのカバーキャップを開け
エピペン[®]を取り出す

② しっかり握る



オレンジ色のニードルカバーを
下に向け、利き手で持つ

“グー”で握る!

③ 安全キャップを外す



青い安全キャップを外す

④ 太ももに注射する



太ももの外側に、エピペン[®]の先端
(オレンジ色の部分)を軽くあて、
“カチッ”と音がするまで強く押し
あてそのまま5つ数える

**注射した後すぐに抜かない!
押しつけたまま5つ数える!**

⑤ 確認する



使用前 使用後

エピペン[®]を太ももから離しオレ
ンジ色のニードルカバーが伸び
ているか確認する

伸びていない場合は「④に戻る」

⑥ マッサージする



打った部位を10秒間、
マッサージする

介助者がいる場合



介助者は、子供の太ももの付け根と膝を
しっかり抑え、動かないように固定する

注射する部位

- ・衣類の上から、打つことができる
- ・太ももの付け根と膝の中央部で、かつ
真ん中 (A) よりやや外側に注射する

仰向けの場合



座位の場合



D

救急要請（119番通報）のポイント

◆あわてず、ゆっくり、正確に情報を伝える



119番、
火事ですか？
救急ですか？

救急です。



①救急であることを伝える

「食物アレルギーによるアナフィラキシー患者の
搬送依頼です」

「ぜん息患者の搬送依頼です」



住所はどこですか？

○区(市町村)○町
○丁目○番○号
○〇保育園
(幼稚園、学校名)です。



②救急車に来てほしい住所を伝える

- ・学校（園）の所在地：
- ・学校（園）名：
- ・学校（園）の電話番号：
- ・近くの目標となるもの：



どうしましたか？

5歳の園児が
給食を食べたあと、
呼吸が苦しいと
言っています。



③「いつ、だれが、どうして、現在どのよう な状態なのか」をわかる範囲で伝える

エピペン[®]の処方やエピペン[®]の使用の
有無を伝える

- ・かかりつけの医療機関名：
- ・協力医療機関名：



あなたの名前と
連絡先を教えてください

私の名前は
○×□美です。
電話番号は…



④通報している人の氏名と連絡先を伝える

119番通報後も連絡可能な電話番号（携帯電話等）を伝える

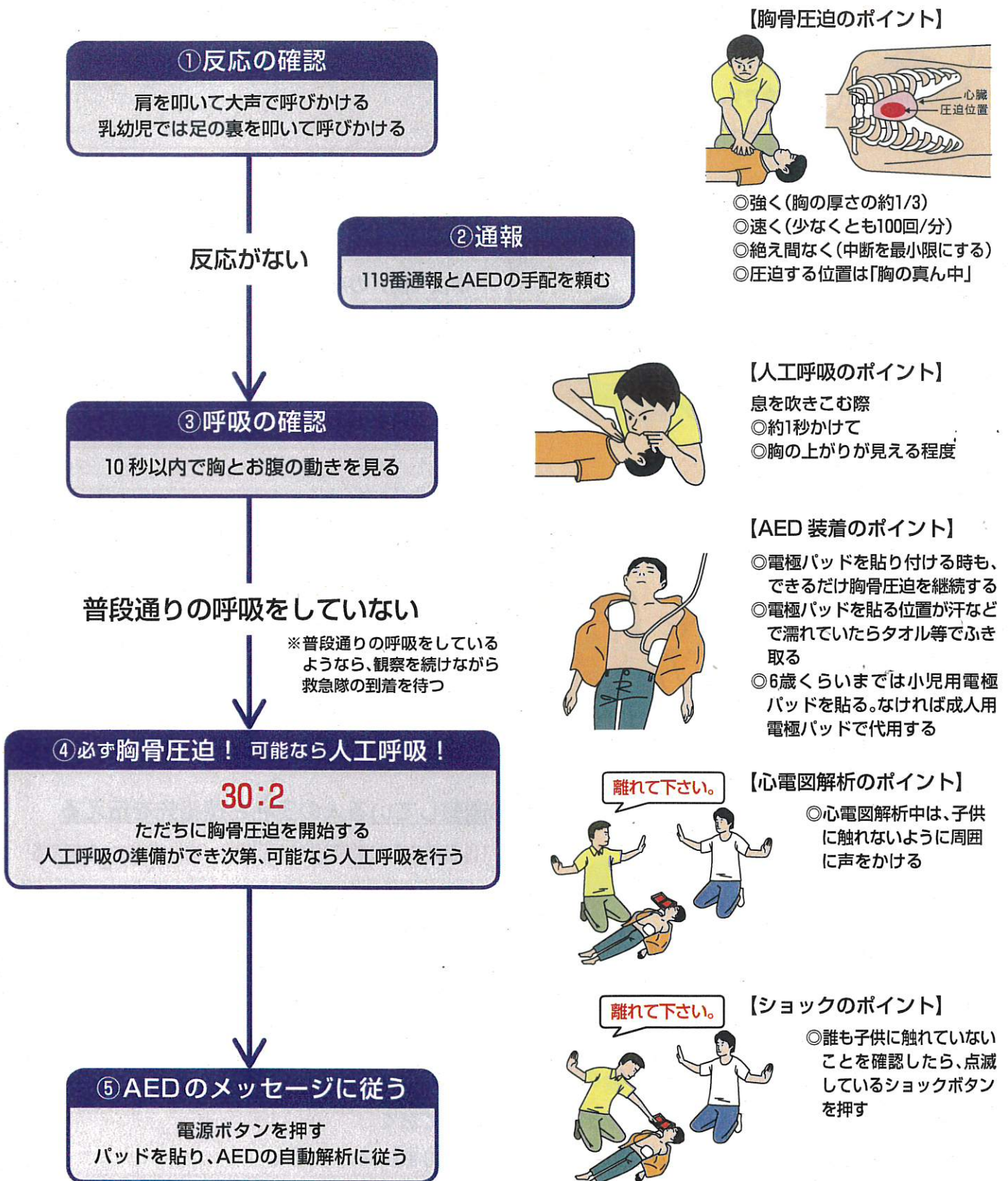
学校への侵入経路（例：西門等）について、具体的に伝える

※向かっている救急隊から、その後の状態確認等のため電話がかかってくることもある

- ・通報時に伝えた連絡先の電話は、常につながるようにしておく
- ・その際、救急隊が到着するまでの応急手当の方法などを必要に応じて聞く

◆強く、速く、絶え間ない胸骨圧迫を！

◆救急隊に引き継ぐまで、または子供に普段通りの呼吸や目的のある仕草が認められるまで心肺蘇生を続ける



- ◆症状は急激に変化することがあるため、5分ごとに、注意深く症状を観察する
- ◆の症状が1つでもあてはまる場合、エピペン®を使用する
(内服薬を飲んだ後にエピペン®を使用しても問題ない)

観察を開始した時刻(時 分) 内服した時刻(時 分) エピペン®を使用した時刻(時 分)

全身の症状

- ぐったり
- 意識もうろう
- 尿や便を漏らす
- 脈が触れにくいまたは不規則
- 唇や爪が青白い

呼吸器の症状

- のどや胸が締め付けられる
- 声がかすれる
- 犬が吠えるような咳
- 息がしにくい
- 持続する強い咳き込み
- ゼーゼーする呼吸

- 数回の軽い咳

消化器の症状

- 持続する強い(がまんできない)お腹の痛み
- 繰り返し吐き続ける

- 中等度のお腹の痛み
- 1~2回のおう吐
- 1~2回の下痢

- 軽いお腹の痛み(がまんできる)
- 吐き気

目・口・鼻・顔面の症状

- 顔全体の腫れ
- まぶたの腫れ

- 目のかゆみ、充血
- 口の中の違和感、唇の腫れ
- くしゃみ、鼻水、鼻づまり

皮膚の症状

- 強いかゆみ
- 全身に広がるじんま疹
- 全身が真っ赤

- 軽度のかゆみ
- 数個のじんま疹
- 部分的な赤み

上記の症状が
1つでもあてはまる場合

1つでもあてはまる場合

1つでもあてはまる場合

- ①ただちにエピペン®を使用する
- ②救急車を要請する(119番通報)
- ③その場で安静を保つ
(立たせたり、歩かせたりしない)
- ④その場で救急隊を待つ
- ⑤可能なら内服薬を飲ませる

B 緊急性の判断と対応 B-2参照

ただちに救急車で
医療機関へ搬送

- ①内服薬を飲ませ、エピペン®を準備する
- ②速やかに医療機関を受診する
(救急車の要請も考慮)
- ③医療機関に到着するまで、5分ごとに症状の変化を観察し、の症状が1つでもあてはまる場合、エピペン®を使用する

速やかに
医療機関を受診

- ①内服薬を飲ませる
- ②少なくとも1時間は5分ごとに症状の変化を観察し、症状の改善がみられない場合は医療機関を受診する

安静にし、
注意深く経過観察

緊急時に備えるために

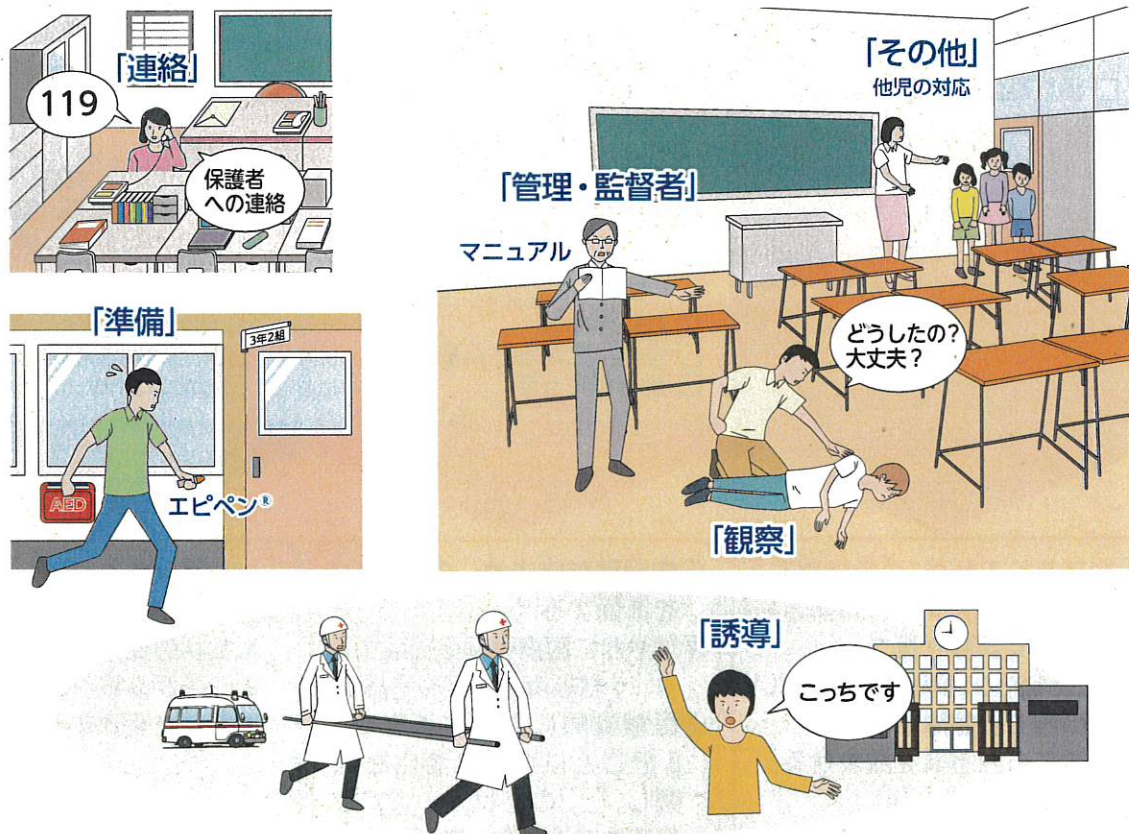
本マニュアルの利用にあたっては、下記の点にご留意ください。

- ☆ 保育所・幼稚園・学校では、食物アレルギー対応委員会を設置してください。
- ☆ 教員・職員の研修計画を策定してください。奈良県等が実施する研修を受講し、各指針等[※]を参考として校内・施設内での研修を実施してください。
- ☆ 緊急対応が必要になる可能性がある人を把握し、生活管理指導表や取組方針を確認するとともに、保護者や主治医からの情報等を職員全員で共有してください。
- ☆ 緊急時に適切に対応できるように、本マニュアルを活用して教員・職員の役割分担や運用方法を決めておいてください。
- ☆ 緊急時にエピペン[®]、内服薬が確実に使用できるように、管理方法を決めてください。
- ☆ 「症状チェックシート」は複数枚用意して、症状を観察する時の記録用紙として使用してください。
- ☆ エピペン[®]や内服薬を処方されていない（持参していない）人への対応が必要な場合も、基本的には「アレルギー症状への対応の手順」に従って判断してください。その場合、「エピペン[®]使用」や「内服薬を飲ませる」の項は飛ばして、次の項に進んで判断してください。

※ 各指針等

- ・「奈良県学校におけるアレルギー疾患対応指針」（平成 28 年奈良県教育委員会発行）
- ・「学校給食における食物アレルギー対応指針」（平成 27 年 文部科学省発行）
- ・「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」（平成 20 年 財団法人日本学校保健会発行）

この食物アレルギー緊急時対応マニュアルは
(<http://www.pref.nara.jp/6286.htm>) よりダウンロードできます。



このマニュアルは、東京都の許諾を得て、東京都健康安全研究センター発行の「食物アレルギー緊急時対応マニュアル」を掲載
をしています（一部改変）

（承認番号 27 健研健康第 1464 号）